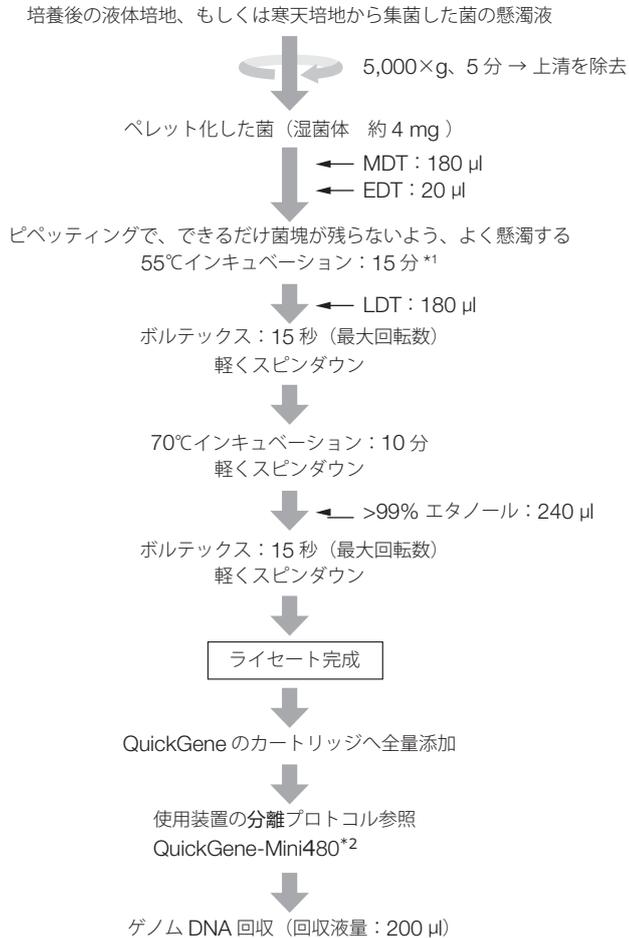


ピロリ菌からのゲノムDNA分離

プロトコル



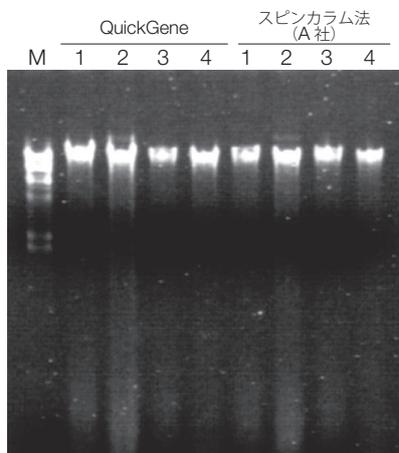
*1 この時菌塊が残ってれば、ピペティングで菌塊を壊し、再度インキュベートする。

*2 本事例は旧機種で取得したデータも含まれます。その他QuickGeneシリーズでもこのプロトコルをご参照頂けます。

結果

菌株 : 各湿菌体 約 4 mg から分離された臨床分離株 No. 1 ~ 4

電気泳動図



電気泳動条件 : 1.5% アガロース / 1 × TAE

M : λ-Hind III
1 : 菌株 No.1
2 : 菌株 No.2
3 : 菌株 No.3
4 : 菌株 No.4

分離したゲノム DNA に分解は認められなかった。

■ ゲノム DNA の収量

サンプル	No.1	No.2	No.3	No.4
QuickGene	3.0 µg	4.2 µg	2.0 µg	3.2 µg
スピнкаラム法 (A社)	2.9 µg	4.7 µg	1.0 µg	2.9 µg

■ タンパク質の混入：A260/280

サンプル	No.1	No.2	No.3	No.4
QuickGene	2.01	1.91	1.88	1.93
スピнкаラム法 (A社)	1.92	1.88	1.78	1.82

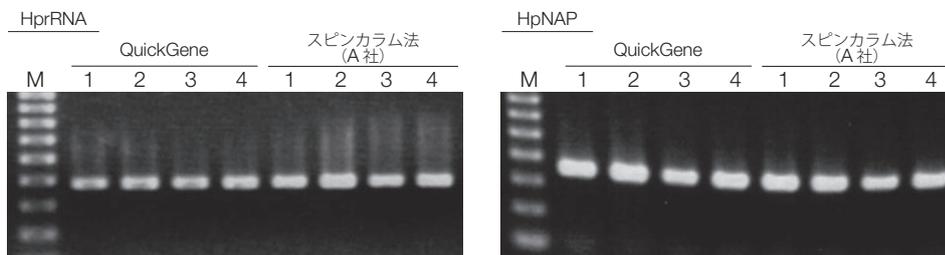
■ カオトロピック塩の混入：A260/230

データなし

■ その他

● PCR

QuickGene システムおよびスピнкаラム法 (A社) を用いて分離したゲノム DNA で、ピロリ菌の 16s ribosomal RNA (A) 遺伝子および neutrophil-activating protein (NAP) (B) 遺伝子の検出を、PCR により行った。



電気泳動条件：
2% アガロース / 1 × TAE

M：100 bp DNA Ladder
1：菌株 No.1
2：菌株 No.2
3：菌株 No.3
4：菌株 No.4

いずれのゲノム DNA でも、PCR 産物を検出できた。

■ 共通プロトコルサンプル

淋菌 (*Neisseria gonorrhoeae*)、緑膿菌 (*Pseudomonas aeruginosa*)